

大会長挨拶

弘前大学大学院保健学研究科・教授
弘前大学被ばく医療総合研究所・所長

柏倉 幾郎

この度、日本放射線影響学会第56回大会を平成25年10月18日（金）～20日（日）の期間、青森市・クラウンパレス青森を会場に開催させて頂くことになりました。

放射線は産業や医療など、我々の身のまわりで幅広く利用されております。特に医療分野における診断や治療での応用発展の進歩は目覚ましいものがあります。一方で日本ではこれまでの様々な歴史的な経緯もあり、「放射線」という言葉には負のイメージがつきまってきました。さらに、2011年3月に発生した東日本大震災に起因する福島第一原子力発電所事故に伴い、放射線の健康への影響や将来への不安が多くの国民の重大な関心事となっている現在、改めて放射線影響研究の重要性とそこに携わる研究者の責務が問われているものと理解しております。そうした中、放射線影響科学に関わる幅広い研究者が集まり、学術大会を開催することの意義は大変大きいものと考えております。

日本放射線影響学会は「放射線の人体と環境に与える影響およびこれに関する諸科学の進歩に寄与する」ことを主な目的として1959年に設立されました。第1回の学術大会は1959年10月に東京大学で開催され、これまで計55回にわたり学術大会を開催すると共に、専門学術誌の刊行等様々な研究活動により、日本国内における放射線影響研究の中心学会として学術の進展に寄与してきました。しかし、青森県での開催は過去55回の学術大会史上初である点も考慮し、今回の大会のメインテーマを「北の地から放射線科学の未来を創造する」としました。また、隣接する会場で臨床研究を主体とする日本放射線腫瘍学会第26回学術大会が同時開催され、幾つかのプログラムを共有することで相互の交流を図り、関連分野との協力や協調により、放射線影響研究の一層の発展を目指しております。

青森市は本州北端に位置しますが、東京から東北新幹線・新青森駅までは最速で3時間10分、青森空港と伊丹、名古屋、東京、札幌間に定期路線があり、空港からは接続バスで市内まで30分程度と、地方都市としてのアクセスもますますです。学術プログラムでは一般口演発表を中心に、シンポジウム、ワークショップ、特別講演など青森県での開催に相応しい内容を企画致しました。また、大会2日目に予定しております懇親会では日本放射線腫瘍学会との合同で海の幸をご堪能頂く予定です。青森県ならではの有意義な大会となるように、事務局一同努めて参りますので、関係各位のご支援を切にお願い致しますと共に、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

平成25年10月吉日